

(道徳)

「子どもが道徳的価値を理解する指導法の工夫」

大阪市立矢田北小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、平成22年度より算数科を重点教科とし、「基礎・基本の徹底を図り、学力を高める」を研究主題に設定し、学力の向上を図ってきた。数学的活動を充実したり、自分の考えを分かりやすく表現させたりしながら、三年間にわたって算数科の研究を進めてきた結果、児童の基礎的・基本的な学力の向上に寄与できたと考える。

平成25年度からは、「人とのつながりを大切にし、外国語などを使って、積極的にコミュニケーションを図る子どもを育てる」を研究主題とし、コミュニケーション能力の育成を図ってきた。第一学年から外国語の授業を行うように年間指導計画を立て、フォニックスの活動や絵本の読み聞かせ等を柱として研究を進めた結果、平成26年度には「学校活性化推進事業がんばる先生支援」で発表することができた。平成28年度も、引き続きコミュニケーション能力を高めるため、「自分の考えを進んで伝え合う」をテーマに、社会科・生活科等を重点教科として、伝え合う力を育んだ。

これらの力を育んできた中、平成27年3月に学習指導要領等の一部改正が行われ、「特別の教科 道徳」が新たに位置づけられることとなった。それに基づき、「考え、議論する道徳」の授業への転換を図ることが、小・中学校の道徳教育で見直されることが決定した。平成28年12月21日の中央教育審議会答申では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという「社会に開かれた教育課程」の実現や、生きて働く知識・技能の習得等、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善が示された。

2. 研究の趣旨

本校が過去に取り組んできた研究の成果を今後も継続し、かつ今後の教育活動の展開を見据え、平成29年度の研究主題を「考え、議論する道徳への転換」と設定し、一年間道徳教育に取り組んだ。

研究を進めてきた結果、課題が浮かび上がった。新学習指導要領解説道徳編の目標には、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と示されている。そこで、本年度の研究主題を「子どもが道徳的価値を理解する指導法の工夫」と設定し、二年間の道徳教育の成果をまとめることとした。

3. 研究の概要

次の二点を研究の柱とし、これらを含んだ授業実践を重ねていくことで、子どもが道徳的価値を深く理解できるという仮説を立てた。

視点① 道徳学習指導案の工夫

- 「フローチャート図」を載せ、基本発問や中心発問の内容だけでなく、補助発問も活用できるように発問構成を考える。
- 指導書だけに頼らない、本校の児童の実態に即した発問を工夫する。

視点② 授業展開の工夫

- ICT機器を活用したり、掲示物や具体物を工夫したりし、児童の興味・関心を引き付ける授業を展開する。
- 役割演技や動作化を積極的に取り入れ、発言したくなる状況をつくる。
- 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、ペア学習やグループ学習等による話し合いの場面を設定するとともに、道徳ノートを工夫する。

4. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 全教員が実施した全ての学習指導案にフローチャート図を載せたことで、主発問と補助発問の構成を明らかにし、児童の多様な考えを引き出すことができた。また、授業の展開や流れが明確になり、研究協議会においても研究の柱に沿って活発な意見交流を図ることができた。
- 指導案検討の段階から、本校の児童の実態に即した発問を十分に練り合うことによって、児童が価値の理解を深めることに適した発問を教材文から導き出すことができた。また、道徳ノートの工夫を図り、教材によって発問構成を考える指導を継続した。その結果、教室に児童が発言したくなる環境が生まれ、多様な考えを交流し合う姿が見られた。
- ICT 機器の活用を図り、児童の意見を引き出す機会を多く設けたことで、全児童が集中して授業に参加できる環境を生み出すことができた。特に、タブレット端末を使って教材の質問に対する児童の回答結果を瞬時に集計して提示することで、他の児童の考えを共有できるようにし、価値を高めるきっかけをつくり出すことができた。
- 役割演技や動作化を積極的に取り入れたことで、児童の興味・関心を引き付け、教材のねらいを明確にして授業を展開することができた。道徳の授業を楽しみに感じる児童が増え、授業を重ねるたびに意欲的に発言する児童の数が増えた。
- ペア学習やグループ学習を導入して児童の多様な意見を交流する機会をつくったことで、新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」にも対応した授業づくりができ、今後の研究を見据えた成果を残すことができた。

(2) 今後の課題

二年間の研究を通して、「子どもが道徳的価値を理解する指導法」について、教職員が一定の理論を身につけ、実践研究を継続することができた。道徳ノートについても工夫を図り、児童の多様な考えを生み出すことができたと考える。

一方で、一年目からの課題である、道徳と人権教育との関連・道徳と各教科との関連を示した「詳細な年間計画の立案」や、児童の考えや記述についての「道徳の正しい評価」については、これからさらに検討していかなければならない。

二年間の研究を本年度で終結せず、継続しながら今後の課題を検討していくことで、道徳についての理解をより一層深めていきたいと考える。